

電力技術研究会シリーズ⑦ 系統運用専門部会

系統運用専門部会は、昭和34年の電力技術研究会発足当時から続く歴史の長い専門部会の1つであり、その開催回数は112回に上ります。メンバーは、系統運用部系統技術グループの長浦主査をはじめ、社外委員7名（大学関係6名、関連会社1名）、当社委員9名で構成され、従来からの「安定供給・信頼度確保」という系統運用の至上命題は勿論、近年では電力自由化に係る課題解決に向けた技術検討・情報交換が行われています。

平成15年6月18日に開催された系統運用専門部会では、電力自由化の進展が電力システムに与えるインパクトを想定し、「総合的なエネルギー供給に関する技術開発」および「価格競争力強化のための技術開発に関する研究」をテーマとして意見交換が行われました。この中で、社外委員からは新しい周波数計測方式として期待される「同期フェーズ計測に基づく実時間電力系統周波数検出」に関する研究をはじめ4件が、また社内委員からは大幅なコストダウンを目指した

「発電所検出・事後演算型系統安定化装置」についての研究をはじめ3件が報告され、熱心な技術討議が繰り広げられました。また、あわせて原子力停止による需給バランスへの影響や、当社オンラインTSCのエジソン賞受賞など、昨今のトピックスも紹介されました。



系統運用専門部会の様子

ナノテクフェア、フロンティア21へ出展

技術開発本部では、10月8日(水)～10日(金)にかけて2カ所の社外フェアに出展いたしました。

東京ビックサイトで行われた「日経ナノテクフェア2003」では主催元の日本経済新聞社からの依頼を受け、当社が開発中の燃料電池およびバイオマス技術について紹介すると共に、2005年に予定されている日本国際博覧会（愛知万博）に出展される予定の高温型燃料電池や廃棄物発電技術等も合わせて紹介し、来場者の方々の関心を集めました。



日経ナノテクフェア会場入口

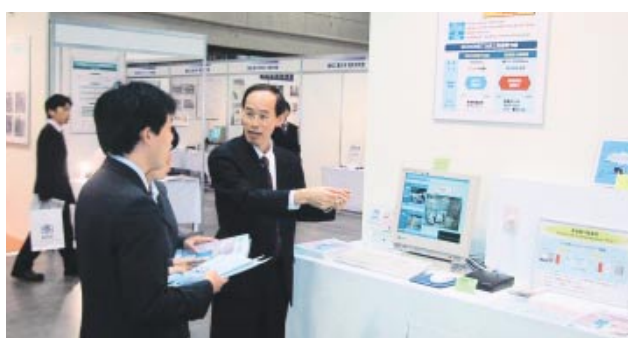


当社の燃料電池展示の様子

また、名古屋市中小企業会館(吹上ホール)で行われた第34回「フロンティア21エレクトロニクスショー」は「先端電子技術が彩るIT・ITS社会」をテーマに開催され、当社の通信技術を紹介いたしました。当社の電灯線を活用できる技術としてPLC通信の紹介を行い、その模擬回線を使ったWebカメラの双方向画像通信により同時開催した当社テクノフェア2003とを同時放映し、みなさまから通信技術の将来動向に対する熱い関心を集めました。



フロンティア21会場入口



PLC通信技術紹介の様子